

(excerpt translation)

Japanese Pat. Appl. Laid-open (kokai) No.: SHO 49-56324
Date of Publication (kokai) of Application: May 31, 1974
Title of the Invention: ENGAGING MECHANISM FOR WINDOW GLASS WHICH
RISES AND FALLS
Application No.: SHO 47-98806
Date of Filing: October 2, 1972
Applicant: Shimada Channel Seisakusho Co., Ltd.
Inventor(s): T. ADACHI, et al.

Page 132, upper left, line 10 to upper right, line 1:

In FIG. 1, the basic part 1, which is made of soft synthetic resin, has a relatively large thickness. At opposite sides of the basic part 1, side wall ribs 2 and 3 are diagonally formed in a symmetric manner. The end portions of the side wall ribs 2 and 3 have two grooves 4 and 5, and 6 and 7, each, on their inner sides. The free arms 8 and 9 and engaging parts 10 and 11 are bent inwards. The basic part 1, the side wall ribs 2 and 3, and the free arms 7 and 8 are provided as one piece.

2)



特許願

(特許法第2条第1項の規定による特許出願)

金千円 (2,000円)

昭和47年 5 月 31 日

特許庁長官 三 名 幸 夫 殿

1. 発明の名称 昇降硝子の係合具
2. 特許請求の範囲に記載された発明の数 3
3. 発明者
住 所 (居所) 埼玉県大宮市植竹1丁目142番地の4
氏 名 足 立 多 郎
他 1 名
4. 特許出願人
住 所 (居所) 東京都台東区豊泉2丁目12番8号
氏 名 株式会社輪田チャンネル製作所
(内 部) 代表取締役 輪 田 功
5. 代 理 人 〒101
住 所 東京都千代田区神田須田町1丁目5番地 東洋ビル
氏 名 弁理士 加 藤 格
電 話 (251) 2600・2601・2602

6. 添付書類の目録

- (1) 明 細 書 1 通
- (2) 図 面 1 通
- (3) 願 書 同 本 47-98806 1 通
- (4) 委 任 状 1 通
- (5) 出願審査請求書 1 通



① 日本国特許庁 公開特許公報

- ①特開昭 49-56324
- ④公開日 昭49.(1974)5.31
- ②特願昭 47-98806
- ②出願日 昭47.(1972)10.2
- 審査請求 有 (全3頁)

庁内整理番号

⑤日本分類

6608 36

80 B51

明 細 書

発明の名称 昇降硝子の係合具

特許請求の範囲

1. 軟質合成樹脂で、基部1を厚目に形成し、該基部1の両側に対称的に斜設した側壁リブ2、3の先部内面に、それぞれ二つの折曲溝4、5及び6、7を刻設して自在腕8、9および係合部10、11をそれぞれ互いに内方に向けて一体成形したことを特徴とする昇降硝子の係合具。
2. 基部1を厚目に形成し、該基部1の両側に対称的に斜設した側壁リブ2、3の先部内面に、それぞれ二つの折曲溝4、5、及び6、7を刻設して自在腕8、9および係合部10、11をそれぞれ互いに内方に向けて軟質合成樹脂にて一体成形し、基部1および自在腕8、9並びに係合

部10、11の表面に生地や植毛12を施したことを、
特徴とする昇降硝子の係合具。

8. 基部1を厚目に形成し、該基部1の両側に対称的に斜設した側壁リブ2、3の先部内面に、それぞれ二つの折曲溝4、5及び6、7を刻設して自在腕8、9および係合部10、11をそれぞれ互いに内方に向けて軟質合成樹脂にて一体成形し、基部1および自在腕8、9並びに係合部10、11の表面に熱可塑性合成樹脂13を施したことを特徴とする昇降硝子の係合具。

発明の詳細な説明

この発明は、昇降硝子の係合具に関するものである。

従来、自動車などの窓における昇降硝子の係合具としては種々なチャンネルが採用されているが、

Best Available Copy

何れも硝子と接するリップ面が小さく、かつ、硝子の振動や移動などによるばらつきに対してはその防止が困難であり、また防音、防水、防じん性に不十分であつた。

この発明は、係合部を硝子と面接触せしめて接面積を大とし、かつ、自在腕を設けて前記係合部の移動を弾力的にして従来の欠点を是正すると共に、従来から備つている硝子を柔軟に保持することも確保するにある。

次にこの発明を図面について説明すると、才1図において、軟質合成樹脂で基部1を少しく厚目に形成し、該基部1を中央とし、その両側に対称的に斜設した隔壁リップ2、3の先端内面に、それぞれ二つの折曲溝4、5及び6、7を刻設して自在腕8、9および係合部10、11をそれぞれ互いに

合部10、11の弾性作用により、硝子14の微部および左右側部の表裏を種よく押える。そして、係合部10、11と硝子14は面接触し、接触面積が大きいから、防音、防水、防じんなどの効果が多大であり、また才5図に示すように硝子14が係合具の中心からはずれても、自在腕8、9および係合部10、11の弾性作用により、該硝子14を確実に係合することができる。また、才2図及び才3図に示すように、基部1および自在腕8、9並びに係合部10、11の表面に生地や植毛12、或いは熱可塑性合成樹脂13などを施せば一層効果的である。

図面の簡単な説明

才1図および才2図並びに才3図は正面図、才4図および才5図は実施態様を示す断面図である。

図中

特開 昭49-56324 (2)

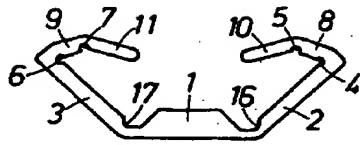
内方に向けて一体成形したものである。そして、才2図に見られるように、基部1および自在腕8、9並びに係合部10、11の表面に生地や植毛12を施すことも、また才3図の如く、ナイロンやテフロンのような低摩擦係数の熱可塑性合成樹脂13を施すこともできる。

この発明の係合具は、才4図及び才5図に見られるように主として自動車窓に係る昇降硝子14に係合する窓枠の上部および左右側部にあらかじめ設置したサッシ15にコ状に折曲して密合するものであつて、基部1と隔壁リップ2、3の連結部に切溝16、17が刻設してあるから、折曲げ易い。サッシ15に密合したコ状の係合具は、硝子14が昇降する（紙面に対して直角方向）際に折曲溝4、5、6、7が設けてあるから、自在腕8、9および係

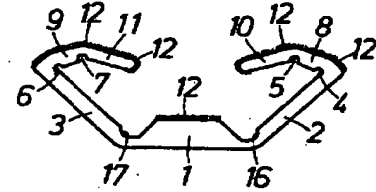
1... 基部、2、3... 隔壁リップ、4、5、6、7... 折曲溝、8、9... 自在腕、10、11... 係合部、12... 植毛、13... 熱可塑性合成樹脂。

特許出願人 株式会社 瑞田チャンネル製作所
代理人 加 藤 格

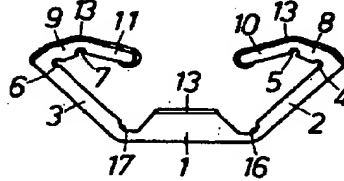
第1図



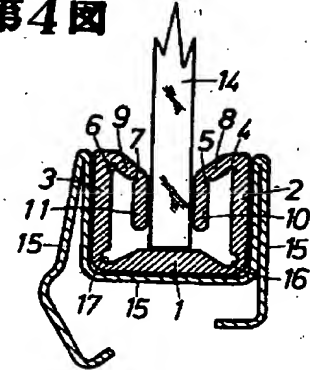
第2図



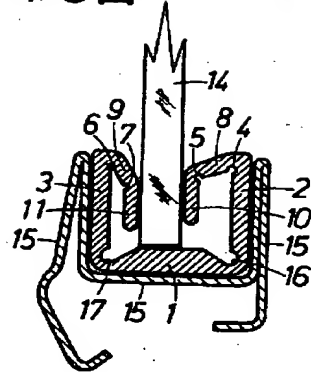
第3図



第4図



第5図



7. 前記以外の発明者

コシガヤシヒサシロベヤシ

住 所 埼玉県越谷市東小林408番地

氏 名 高 村 和 孝

Best Available Copy